



全学共通科目の提供について

水上 徹男（全学共通カリキュラム運営センター部長 / 社会学部教授）

全学共通カリキュラム運営センターでは、大学の10学部の卒業要件単位となる「全学共通科目」と学部横断的分野である「グローバル教養副専攻」を運営している。言い換えれば、10学部と学内各部署の協力（科目担当）を受けて共通の科目群が形成され、幅広い領域の科目の提供を可能にしてきた。言語系科目と総合系科目から構成される「全学共通科目」は、全体で3,700以上のコマ数（2018年度、同一科目を含む）となり、立教大学の看板の一つになっている。

言語系科目は、言語A（英語）と言語B（ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、文学部のみロシア語、外国人留学生のみ日本語）の2つのプログラムを展開しているが、2018年度の言語系科目のコマ数は全体で3,075（同一科目を含む）となっている。なかでも学生8名で実施する英語ディスカッションは全体の3分の1となる1,152コマを占めている。

総合系科目は、導入期（1年次春学期）に「学びの精神」を履修し、大学で学ぶための基礎を身に付ける。形成期（1年次秋学期～2年次秋学期）では、「多彩な学び」で専門分野の枠に限定されない多様な領域の学習によって、視野を広げることができる。さらに完成期（3年次春学期～4年次秋学期）には「多彩な学び」のなかに「立教ゼミナール発展編」を用意するなど、段階的な教育プログラムを提供している。スポーツ実習科目については何年次生でも履修が可能である。2018年度の総合系科目の総開講コマは、706（池袋497、新座209コマで同一科目を含む）となっており、豊かな科目群を有している。

このようなカリキュラムを確立するまでに長い道のりを経てきた。それは1991年7月の大学設置基準の大綱化に遡る。この大綱化を受けて、同年10月に「全学カリキュラム検討委員会」の設置が決定。その後に答申が出され、組織の在り方などの議論を重ねて、1994年12月に「全学共通カリキュラム運営センター」が発足する。1995年3月には一般教育部が廃止され、同年4月から同センターが一般教育課程を運営するようになり、1997年4月に「全学共通カリキュラム」が全面実施となった。これは一般教育部を廃止して、教養教育課程の責任主体を新設する改革であった。それまでに幾度も会議を重ねて検討を行なっているが、学内の合意形成に至るまで多くの困難を乗り越えてきた。『立教大学〈全カリ〉のすべて』（2001）のなかで、当時の大橋英五総長が「そのプロセスは平坦ではなく、激しい対立を含むものであった」、また「全カリの理念と制度は、21世紀に向けた立教大学自身の苦闘の記録でもあります」と述べている。

全カリの基礎にはリベラルアーツ教育があり、専門的な知識だけでなく全人的教養を身に付けた人材育成を目指している。リベラルアーツ教育を時代に合わせて推進するにあたり、「専門性に立つ教養人の育成」の指針を示した。その後もこの理念を確認しながら、いくつかのカリキュラム改革が行われている。例えば、2010年度から言語新カリキュラム、2012年度から総合新カリキュラムを導入、さらに2013年度から総合教育科目の中にグローバル・リーダーシップ・プログラム等の自由科目を展開した。そして2016年度にはRIKKYO Learning Styleの導入とともに「全学共通カリキュラム」から「全学共通科目」となり、現行の制度が確立とされた。2017年4月からは「専門性に立ち世界に通用する教養人の育成」を目標に掲げたプログラムとして、グローバル教養副専攻を導入した。

1994年1月に発足した全学共通カリキュラム運営センターの初代部長に寺崎昌男先生が任命されて以来、昨年度まで部長としてご尽力された佐々木一也先生が8代目、本年度に水上が9代目の部長となった。多くの大学が学部別に専門教育課程を提供するようになってきているが、立教大学はすべての学部と全カリセンターの緊密な連携のもとに、全学共通科目を各学部の教員が担当している。これまでと同様、各学部の先生方のご協力をお願い申し上げます。



全カリ副部長に就任して

浅妻章如（全学共通カリキュラム運営センター副部長 / 法学部教授）

私は法学部で租税法を担当しています。ではなぜ文系を選んだか。高校3年生に進級する直前、文理選択に迷い、ボールペンを転がして文理選択を決めました。なぜ文理選択に迷ったか。文系だったら検察官になりたいと思っていたものの国語と社会が苦手、他方、理系だったらなりたと思う将来像がなかったためです。

法学部2年次生時の成績は散々だったのですが、反省して期末試験対策に力を注いだところ3年次生時の成績が良くなった（当時の期末試験は前期も後期も合わせて年度末でした）ということが4年次生時に判明し、「俺ってできるじゃん」と勘違いし、その時に受講していた租税法の中の国際租税法に惹かれた、という次第です。

何が言いたいかというと、高校では（私が高校生だった時だけでなく、今も？もしかしたら今はより一層？）早めに将来の進路を見据えて勉強しろ、と言われるけれども、無理だよなー、ということです。高校生の時に、租税法研究者という仕事が、しかも経済学部や経営学部等ではなく法学部にある、ということ想像することは難しいです。理系を選んだとした場合の将来像が描けなかった、というのも、想像力の貧困さを意味しています。今から振り返ると、あの時ボールペンが理系を指し示していたら、それはそれで何らかの仕事（親が電気専攻だったので電気関連でしょうか）を選んだのでしょう。何を勉強するか、何の仕事を選ぶか、等々、選んではいるつもりではあるものの、結構な部分が偶然に左右されます。私は二十代の頃までは機会平等が大切だと思っていましたが、最近、機会平等とはスパルタやキブツのように政府が子を親から切り離して養育・教育すること抜きには達成し難く、それって機会平等の背後にある個人の尊重の理念とはかけ離れた全体主義だよなー、という諦念に苛まれております。

私は幸い2年次から法学専門科目が楽しいと感じましたが（前述の通り成績は不調でしたが）、残念ながら周囲の友人を見ると法学が好きになれないまま法学部卒業を目指さざるをえなかった人も少なからずいます。進路転換を容易にすべきという議論もできるかもしれませんが、偶然に左右される部分をなくすことはできない人生の中の一部で、専門科目外のことを全学共通科目で学べることが学生にとって救いとなればいいな、と思っております。

全カリシンポジウム開催のご案内

『「全カリ」の意義と役割を改めて考える』

日 時：2018年11月22日（木）18:30～20:00

場 所：池袋キャンパス7号館7102教室

対 象：本学教職員、学生、校友、一般（※入場無料、申込不要）

登壇者：郭 洋春（総長、経済学部教授）

佐々木 一也（前全学共通カリキュラム運営センター部長、文学部教授）

水上 徹男（全学共通カリキュラム運営センター部長、社会学部教授）

1997年に全学の教養教育を担うカリキュラムとして「全学共通カリキュラム」がスタートしてから20年が経過し、全学共通カリキュラム運営センター発足時から「全カリ」を取り巻く環境も変化してきました。

一方、Society5.0時代に向けて、文系・理系を問わず、多様で幅広い知識と教養を身に付け、それを基礎として自ら深く考え抜き、自らの言葉で解決策を提示することのできる人材が求められています。本シンポジウムは、立教大学における「全カリ」について、総長、新旧の全カリ部長を交え、その役割や意義について改めて考える機会といたします。

グローバル教養副専攻 新コース、テーマの紹介

「グローバル教養副専攻」は、所属する学部学科や専修の専門性に加えて、これからの社会でより必要とされる知識やスキルを身に付けるため、自らの興味・関心に沿って学部横断的に学んでいく教育プログラムです。2018年度より新たに学部や学内諸機関が提供する科目を中心に構成するディシプリンコースが設置されました。今号では、その中の一つ「データサイエンス」をテーマにしたコースを紹介합니다。

ディシプリンコース データサイエンス

◆グローバル人材に求められるデータ活用力を身に付ける

「データサイエンス」は、各学部の専攻分野で学んだことを、グローバル化の進んだ社会における様々な場面で生かすためのスキルを養成するコースです。文系の学生でも、ビッグデータの活用や統計分析を学ぶことができます。



社会に存在する膨大な情報の中から、必要なデータを自在に組み合わせて分析し、新たな価値を創出するための力を身に付けることを目指します。

◆データサイエンス力が活用できる仕事

いま、多くの企業で高度なデータ分析能力を持った人材が求められています。経済産業省の推計によると、IT人材は2015年時点で17万人不足しています。さらに2030年には需要が拡大し、最大で約79万人不足する見込みです。



「データサイエンス」で学んだことは、企業において即戦力として求められるスキルに直結するでしょう。例えば、ある企業に眠っている膨大な「顧客データ」単独では、新商品の開発に結び付きません。しかし、そのデータに「気象情報」や「過去の売り上げデータ」、あるいは「SNSの書き込みデータ」を組み合わせて、分析することにより、新商品の開発や効果的なマーケティング戦略を打ち出すことができるようになります。そのためには、ITスキルや統計的分析力、一見無関係に見えるあらゆる情報間の関係を探る鋭い嗅覚など、自らの専門性を生かした幅広い知識が求められます。そのような力はグローバルに展開する企業においては必須能力と考えられており、企業はそのような人材を必要としています。

◆データサイエンス副専攻を修了するためには

「データサイエンス」では、時間や場所を問わず、Webで受講できるe-Learningを導入しています。いつでもどこでも、動画を繰り返し見て自分のペースで学べるのが特長です。修了要件の詳細はグローバル教養副専攻Webサイト (<https://s.rikkyo.ac.jp/rmp/>) を確認してください。

2018年度 全学共通カリキュラム運営センター 名簿

2018年10月現在

全カリ委員会				
役職名	氏名	所属		
部長	水上 徹男	社	現	
副部长	浅妻 章如	法	国ビ	
チームリーダー	細井 尚子	異	異	言語チーム
	松山 伸一	理	生命	総合チーム
運営センター委員	丸山 浩明	文	史	文学部長
	菅沼 隆	済	済	経済学部長
	北本 俊二	理	物	理学部長
	松本 康	社	社	社会学部長
	松田 宏一郎	法	政	法学部長
	橋本 俊哉	観	観	観光学部長
	三本松 政之	福	コ政	コミュニティ福祉学部長
	山口 和範	営	営	経営学部長
	江川 隆男	現	心	現代心理学部長
	濱崎 桂子	異	異	異文化コミュニケーション学部長
東條 吉純	法	国ビ	教務部長	

言語教育科目構想・運営チーム				
役職名	氏名	所属		担当
リーダー	細井 尚子	異	異	
メンバー	師岡 淳也	異	異	英語
	新野 守広	異	異	ドイツ語
	石川 文也	異	異	フランス語
	飯島 みどり	異	異	スペイン語
	細井 尚子	異	異	中国語
	石坂 浩一	異	異	朝鮮語
	細井 尚子 ^{※1}	異	異	諸言語

言語教育研究室				
研究室名		氏名	所属	
英語	主任	師岡 淳也	異	異
		Caprio, Mark E.	異	異
		Cousins, Steven D.	異	異
		川崎 晶子	異	異
		小山 亘	異	異
		森 聡美	異	異
		灘光 洋子	異	異
		佐竹 晶子	異	異
		高橋 里美	異	異
		高山 一郎	異	異
ドイツ語	主任	新野 守広	異	異
		濱崎 桂子	異	異
フランス語	主任	石川 文也	異	異
		小倉 和子	異	異
スペイン語	主任	飯島 みどり	異	異
中国語	主任	細井 尚子 ^{※1}	異	異
朝鮮語	主任	石坂 浩一	異	異
		イ ヒャンジン	異	異
諸言語	主任	細井 尚子 ^{※1}	異	異

※1 言語チームリーダーとの兼務

総合教育科目構想・運営チーム				
役職名	氏名	所属		担当
リーダー	松山 伸一	理	生命	
メンバー	加藤 睦	文	文	人文学
	田中 秀和	理	物	自然科学
	關 智一	済	会	社会科学
	西山 志保	社	社	社会科学
	石渡 貴之	福	ス	スポーツ人間

総合チームサポーター				
	氏名	所属		グループ ^{※2}
学部選出	小山 太一	文	文	人文学
	安藤 道人	済	済	社会科学
	田口 真	理	物	自然科学
	小泉 元宏	社	現	社会科学
	原田 一明	法	法	社会科学
	高岡 文章	観	交	社会科学
	木下 武徳	福	コ政	社会科学
	岡本 紀明	営	国営	社会科学
	浅野 倫子	現	心	人文学
	黒岩 三恵	異	異	人文学
総長任命	石坂 浩一	異	異	社会科学
	大石 和男	福	ス	スポーツ人間

※2 サポートグループ
 人文学系サポートグループ
 社会科学系サポートグループ
 自然科学系サポートグループ
 スポーツ人間科学系サポートグループ

全カリニュースレター No.44
 印刷 2018.11.9 発行 2018.11.14
 発行人 水上 徹男
 編集人 松山 伸一、師岡 淳也
 発行所 立教大学 全学共通カリキュラム運営センター